

鎌ヶ岳遭難(2007年8月)

二人で行動中に道に迷い、登山道から外れた道を宮妻峡に向かったが、途中、一人が崖から約25m落ちた。もう一人も助けようとしたが滑落し二人とも行動不能となった。救助を待ったが、一人は低体温症で亡くなり、もう一人も腰の骨を折る重傷となった。



解説

79歳男性、59歳女性の二人で、宮妻峡～水沢岳～鎌ヶ岳～宮妻峡に戻ってくる計画。通常5～6時間で回れるコースで、計画に無理はなかった。ただ、「当日は気温が高く体力の消耗も激しかった」と推測され、岳峠付近でビバークを余儀なくされた。明るくなるのを待ち下山しようという冷静な判断だったが、宮妻峡キャンプ場北西約600mのカズラ谷で、約25mの崖から男性が滑落。助けようとした女性も滑落。男性は低体温による衰弱で死亡。女性も腰の骨を折る全治1カ月の重傷を負った。3日後に、捜索隊に発見された。

計画に無駄がなくても、気候によっては、思いがけず体力が奪われる。年齢的にも、一晚山中で過ごしたことにより、さらに体力を消耗させたのだろう。そこに登山道が不明瞭となり、崖が現われ、冷静さも低下し、足の踏ん張りが利かずに滑落したものと推測される。残念ながら、もう一人の女性も慌てて助けようとして滑落してしまった。冷静ではいられなかったのだろう。滑落現場は、登山道から僅かに50m下の沢であった。

この事例で、考えたいことは、滑落の当日朝に携帯電話で自宅に連絡を入れている。この時に、詳細を家族に知らせていれば、もう少し救助地点が推測され、迅速に救助されたかも知れない。